

## 昭和55年度一般会計

### 歳入

市税	1,872,413
地方譲与税	37,800
娯楽施設利用税交付金	12,741
自動車取得税交付金	41,205
地方交付税	847,593
交通安全対策特別交付金	5,384
分担金及び負担金	29,239
使用料及び手数料	171,827
国庫支出金	533,237
県支出金	182,228
財産収入	76,023
寄付金	1,553
繰入金	322,620
繰越金	60,000
諸収入	317,337
市債	267,800
<b>歳入合計</b>	<b>4,779,000</b>

### 歳出

議会費	115,282
総務費	774,852
民生費	616,485
衛生費	268,319
労働費	13,798
農林水産業費	191,412
商工費	674,543
土木費	573,333
消防費	234,173
教育費	1,021,781
災害復旧費	2
公債費	269,019
諸支出金	21,001
予備費	5,000
<b>歳出合計</b>	<b>4,779,000</b>

## 校舎(日小)、体育館(清小) 建設工事に着手

### 昭和55年度施政方針

#### 市長演説要旨

#### 基本方針

昭和五十五年第一回市議会定例会が、三月七日から二十一日まで十五日間の会期で開かれ、その冒頭で星野市長は、昭和五十五年の施政方針演説を行いました。

施政方針演説では、教育・文化の向上、社会福祉の増進、民生生活基盤の整備など市民に密着した施策を推進させるため、職員ともども全力を尽す決意を表明しました。

#### 市民とのふれあいと対話

#### 効率的な市政執行に努力

日光市の優れた自然の造形と歴史の遺産の保護をもとに、明るく住みよい文化観光都市づくりを市政の基本的目標にすることを強調。そのためには、市民との触れ合いと対話を重ねながら理解と協調を

求めること。また、厳しい財政状況下においても、行政に対する信頼を確保するためには、職員ともども効率的な市政執行に当たることを表明しました。

#### 予算規模

#### 一般会計は

#### 四十七億円台

#### 下水道事業は特別会計に

最近の石油事情の変化により、国・地方とも財政状況は、先行き予断を許せない情勢にあります。そのような中で今年度予算は、

過疎化現象の歯止め、福祉の充実、教育文化体育の向上、生活基盤・産業の振興などを実現するために、経常経費の節減、一般行政経費の

表紙のことは

表紙シリーズ

日光むかしがたり



#### 女人堂と巫女石

山岳信仰の霊場として開けた男体山は、永い間、女人禁制の山としての歴史がある。現在では、とても考えられない男尊女卑の思想が日本にはあって、男体山を中心とする中禅寺一帯も、女性をこぼみ続けてきた。

明治以前は、中禅寺は霊場として、殺生を禁じ、女や牛馬は、けがれあるものと考えられて、馬返の先、深沢付近から上には入山できなかった。この深沢には、道路のカーブの内側、石垣の上に、今でも女人堂と呼ばれる堂が残されている。男体山通拝所の木柱も立てられていて、お堂の背後に、男体山の山頂がくっきりとそびえて見える。